

4年 国語「クラスみんなで決めるには」

ア 活動の概要

臨時休業のような状況下であっても、話し合い活動をオンラインで行い、児童の学びを成立させていくために Jamboard を活用した。

イ 活用したアプリ

a Jamboard

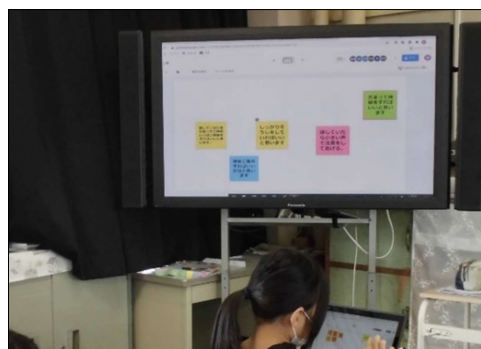
声による話し合い活動が難しかったため、その代替手段として活用した。グループごとの Jamboard を教師が作成し、Classroom にリンクを貼り付け参加させた。Jamboard には参加人数の制限（25名以下）があるため、実態に応じたグルーピングが必要である。



【 児童の活動の様子 】

b ロイロノート

本単元は、「学級全体で役割をもって話し合う」ことをねらいとしている。参加していないメンバーは Jamboard を閲覧することができないため、各グループが話し合った結果を個人の端末の画面で共有するためにロイロノートを使用した。



【 各グループの様子を提示 】

ウ 成功のコツ～チーム学校として～

a 事前準備

学級活動の時間を利用し、「〇〇（清掃等）の時間を見直そう」などのテーマを設定し、操作練習を兼ねた意見の出会いをすることで、より高度な使い方をするための準備ができる。初めて操作するときには「3分間自由に操作してみましょう。そして、見つけた機能をみんなで発表しましょう。」など、自由に操作できる時間を作ったことで、活動に必要な操作を自然と習得することができた。どのような操作が話し合い活動の妨げになってしまうかなど、児童が実感をもって理解することができる。

指導者用端末では、すべてのグループの Jamboard を立ち上げておき、タブの切り替えをしながら様子を見て適宜指導した。教師が各グループの状況を把握することができ、全体の活動をスムーズに行うことができた。

b 留意点

Jamboard には前述した人数制限の他、文字数制限（121文字）もある。画面の大きさの関係で、グループの人数編成にも留意する必要がある。

また、児童の端末は教師のものより画面が小さいため、人数を多くしてしまうと一つ

一つの付箋が見にくくなってしまう。実践した結果、概ね5～6名以下が適していると考えられる。

さらに、「急にテーマがすべて英語に変わる」(再読み込みで直る)「付箋が操作できないくらい大きくなる」(戻るボタンで直る)といったエラーも起こるため、不測の事態に対応できるように情報を学校内で共有する必要がある。

c 他の授業への転用

俳句や詩、アンケートなど、意見やアイデアを出すといった場面で活用することができる。目的や活動人数に応じて、Jamboardとロイロノートを使い分けるとよい。



【指導者用端末の画面及び意見の分類・整理の様子】

エ 成果と課題

a 成果

- ・司会の児童が必要最小限の話をする以外、声を出さずに意見の発表、整理・比較、話題を絞り解決案の検討といった活動を行うことができた。
- ・国語科として、「です・ます」など実際に発表するときのような言葉遣いにするよう指導をしたことで、話し合いでの発言の仕方を意識しながら活動することができた。
- ・「意見を発表しやすかった。」「緊張しなくてよかった。」「普段よりたくさん意見を出すことができた。」など、肯定的な感想があった。こうした意見は、普段あまり挙手しない児童からの意見が多かった。
- ・キーボードが苦手な児童でも手書きパッドを使うことで意欲的に取り組めた。
- ・「もっとキーボードを上手になりたい。」など、操作技能を高めようと意欲をもった児童も見られた。

b 課題

- ・付箋に名前が表示されないため、グループ内で一人ずつ別々の色を決める、付箋に名前を入れるなどの工夫をするとよい。
- ・「発表しやすかった」「緊張しなかった」というのは成果でもあるが、情報モラルの観点からは、課題としても受け取ることができる。対面でないことから気軽に意見を出せてしまうことは、気を付けるべき点でもあることを指導する必要がある。「匿名の書き込み」「メッセージアプリでのやり取り」などについては、情報モラルの授業でも取り扱いたい。